



様々な専門家とのネットワークを活かし、 FPを核としたワンストップサービスを提供



「1冊の雑誌でFPと出会われたのは
まさにご縁だったのですね」

布川 敏和

タレント

対

Business

談

Feeling

中村 恒瑛



代表取締役・ファイナンシャルプランナー(CFP®)・エンディングコンシェルジュ
経理アドバイザー・山口県移住コーディネーター

■『FP オフィス縁』では、ファイナンシャルプランナーの資格を持つ中村社長が、お金のことに関する様々な悩みを解決してくれる。本日は、そんな同社をタレントの布川敏和氏が訪問し、人との縁を大切にしながら事業に臨む社長に、お話を伺った。

✦ FPという職業を知った日に
その道を目指して一步を踏み出す

布川 はじめに、中村社長の歩みから順に伺います。ご出身はどちらでしょうか。
中村 地元・山口の出身で、この場所が実家なんです。約18年間にわたって贈答品などを扱う店に勤務し、経理を担当していました。企業の経理というのは単なるお金の計算だけではなく、もっと奥深いところがあって、先代社長はそこをよく理解して下さっていたんです。しかし、ご子息が社長に就任されてからは少しずつ状況が変わっていきましてね。ご子息は、パソコンができて経理などはソフトを入れればそれで充分という考え

でした。ある時、病気を患い、入院しなければならなくなったことから、しばらく仕事を休ませてもらっていたんです。退院して出社すると、経理ではなく販売を担当してほしいと言われました。そこから、退社することを視野に入れて仕事をしていました。数日後、不動産関係のお仕事をされている70代の方が紹介されている記事を見ましてね。その方がFP（ファイナンシャルプランナー）という資格の話をされていたんです。それがどんなもので、どうやって取るのかも知りませんでしたが、何か心に残って手帳にメモをし、本屋さんに立ち寄って資格の本を探しました。当時はまだ国家資格ではなく、『日本FP協会』という

団体の認定資格ということで、自宅に帰ってからすぐに『日本FP協会』に電話をして詳しいことを聞かせていただき、勉強をはじめたんですよ。
布川 素晴らしい行動力ですね。
中村 何かに突き動かされているような感じでした。私が資格取得を志したころは、30単位の研修を受けた後、仮試験があり、本試験に進めるというシステムでした。しかし、いざ勉強をしようと思いついたものの、研修を受けられる場所が遠方にしかなかったんです。通信では続かないだろうと思っていたので途方に暮れていたところ、たまたま知り合いを通じてFPの方が相談員をされている年金の相談会があることを知りましてね。話を聞いていただくことができました。すると、今年から広島で研修がはじまるということで、山口から広島まで、3カ月間新幹線通学で受講することができたんです。
布川 その後、無事資格を取得されたの

ですか。
中村 はい。ただ、FPの仕事だけで食べていくのは難しいので、市役所の臨時職員として働くようになり、経理の仕事に携わっていました。しばらくして消費生活相談員となって8年ほど勤務しました。そこで培った相談業務の経験が、今に役立っています。

✦ 様々な専門家とのつながりの中で
核として動いていきたい

布川 予てから、起業は考えておられたのですか。
中村 ええ。いずれは自分の事務所を持ちたいと思っていました。18年間勤めた会社を飛び出て、たくさんの人に出会い、皆さんに引っ張っていただいてこまどくることができました。元々は一主婦なのに、51歳でFPの資格を取得し、経理や相談員を経て、事業をスタートし、平成23年度の金融知識普及功績者賞を

受賞することもできました。この賞は全国で10名程度が選ばれるもので、この年、県内では私1人という栄誉に与りました。当初は違う名前でしたが、しばらくして「縁小屋」と改めたんです。その後、「人の相談を受けるには、長くやるのが大切であり、長くやるためには個人事業では難しい」と気づいたことから、法人化。『FP オフィス縁』としてスタートを切ったところ。中村 はい。お金の話をするには、まずは人間として信用してもらうことが必要です。人となりを知っていただき、縁あってお付き合いがはじまる。そういったことと、「縁」はお金の「円」にも通じるということでこの字を使っているんですよ。私自身、これまでたくさんのご縁に恵まれてきましたが、人のご縁というのは出会いから数年後、その方が私を必要とされたり、私の方が私を必要とする

時につながるものだと思います。
布川 人とのつながりを大切にしてくられたからこそ、良い縁に恵まれたのだと思いますよ。ちなみに、今後はどんな会社にしていこうとお考えですか。
中村 ワンストップの相談室を目指しています。様々な分野の専門家の方々とのネットワークを最大限に活かし、ここに来ていただければどんな問題でも解決できるようにしたいですね。何か困ったことがあれば、すぐに私のことを思い出してもらえようになればと思います。
布川 お話も尽きませんが、最後にこれからの展望をお聞かせ下さい。
中村 FPは人と医療、人と介護、人と地域など、何にでもつながれると思うんです。ですから私は、その中で核として動ける存在になりたいですね。そのために法人化を果たしたわけです。90歳まで現役を貫くつもりですが、いずれは後進にバトンを渡したいと思います。
(2017年8月取材)

COLUMN

「N」をモチーフにしたロゴに込められた思い

▼50歳を過ぎてから勉強をはじめ、FPの資格を取得した中村社長。「勉強をするのに、年齢は関係ない。やりたいことがあれば、何歳からでもできる」と語り、積極果敢に挑戦を続けてきた。そんな社長の事業に対する思い入れは強く、それはロゴマークにも現れている。「N」をモチーフにしたもので、「N」は私のイニシャルで、本名が『久枝』であることから、枝でNの文字を模ったデザインにしているんです。さらに「N」の中には『人』の漢字も入っていて、『縁をつなげると、人がつながっていく』という意味が込められています。このロゴは、事務所の看板や暖簾などもプロデュースしてくれたというデザイナーの作品。「この素敵なロゴと共に、FPとして一生懸命仕事を続けていきたい」と覚悟を決め、一歩一歩前進を続けている。

